

日本生物学的精神医学会理事会議事録

武田雅俊 (理事長)

日本生物学的精神医学会理事会議事録

日 時：2010 年 5 月 21 日 (金) 17:00 ~ 20:00

場 所：広島国際会議場 地下 2 階「楽屋 2」

(打合せ室 2)

出席者：14 名

武田雅俊 (理事長), 加藤忠史, 加藤進昌,
平安良雄, 本橋伸高, 米田 博, 大久保善
朗, 尾崎紀夫, 佐野 輝, 白川 治, 福田
正人, 山脇成人 (以上理事), 松岡洋夫
(監事)

中村 純 (会長)

欠席者：5 名

小山 司, 曾良一郎, 笠井清澄, 染矢俊幸
(以上理事), 渡辺義文 (監事)

(順不同, 敬称略)

議 題：

1. 前々回 (2009/10/4) および前回 (2010/4/23)
理事会議事録承認について

2. 理事長報告

- 1) 第 34 回と第 35 回の大会長, 開催場所, 他
学会との連携について
- 2) 生物精神の会員増加のために
- 3) WFSBP 2013KYOTO の組織委員会について
- 4) 生物精神医学ライブラリーの企画について

3. 各委員会報告

- 1) 総務委員会 (小山理事, 大久保理事)
- 2) 財務委員会 (米田理事, 染矢理事)
- 3) 国際交流委員会 (平安理事, 武田理事)
- 4) 学術賞委員会 (加藤 (忠) 理事)
- 5) 倫理委員会 (本橋理事, 白川理事)
- 6) 将来計画委員会 (加藤 (進) 理事, 笠井理事)
- 7) 関連学会対応委員会 (佐野理事)
- 8) 編集委員会 (曾良理事, 福田理事)
- 9) 広報委員会 (山脇理事)
- 10) ブレインバンク設立委員会 (加藤 (忠) 理事)
- 11) 研究推進ワーキンググループ (加藤 (忠)
理事, 笠井理事)
- 12) うつ病対策ワーキンググループ (加藤 (忠)
理事)

4. WFSBP 報告 (平安理事)

5. 第 32 回年会準備報告 (武田理事長 (中村会長))

6. 第 33 回年会準備状況報告 (加藤 (進) 次々期
会長)

7. 第 34 回年会について (武田理事長)

8. 第 35 回年会 (WFSBP との共催) について
(武田理事長)

9. その他

1. 前々回 (2009/10/4) および前回 (2010/4/23)
理事会議事録の確認武田理事長より, 前々回および前回理事会議事録
が確認され承認された。

2. 理事長報告

武田理事長より, 2009 年 3 月には, 2013 年度
WFSBP Congress の京都誘致のために Bid Book を
作成し, WFSBP に提出した。2009 年 5 月の
WFSBP Paris Congress での EC Meeting では決定
に至らず, 再度 2009 年 12 月に改訂された開催要件
に合わせた Bid Book の修正版を提出した。そして,
2010 年 3 月のミュンヘンでの EC Meeting におい
てプレゼンテーションを行い, 審議の結果全会一致
で 2013 年度の WFSBP Congress を京都で開催する
ことに決定された。これから国内の組織委員会など
を立ち上げ, 準備にかかることが報告された。

3. 委員会報告

1) 総務委員会

大久保委員より会員異動について, 2010
年 4 月 30 日現在で 1,577 名の会員がいる
ことが報告された。

内 訳：名誉会員 11 名

評議員 197 名

正会員 1,366 名

賛助会員 3 社

新入会員： 40 名

退 会：本人申出 53 名

逝 去 6 名

また, 名誉会員推薦について武田理事長よ

り倉知正佳前理事長が推薦され、承認された。武田理事長ならびに米田理事が推薦者となることが提案され、次回評議員会に答申することとなった。

2) 財務委員会

米田委員長より以下の通り 2009 年度決算が報告され承認された。

収入 13,402,024 円に対し、支出 18,649,329 円であり、赤字であるが、委員会活動が活発であったことなどが要因であり、概ね適正に運営されていることが報告された。次期繰越金は 27,920,374 円である。また、定期預金の取り崩しについて必要があれば行うこととなった。

3) 国際交流委員会

平安委員長より、以下のとおり報告された。

①3月3日に EC ミーティングが開催された。

②WFSBP の開催地について、2013 年は京都に決定され、2015 年はアテネ、2017 年ミラノあるいはコペンハーゲンと決定された。

③WFSBP 2013 が京都で開催されるにあたって中国の取り扱いについて協議された。

④プラハで開催される WFSBP 2011 の広報活動について依頼があった。

4) 学術賞委員会

加藤（忠）委員長より、3 件届いており 10 月までに審査し、選考する予定であることが報告された。ただし、候補者に加藤委員長の関係者がいるため、審査には委員長は参加しない。学術賞、国際学会発表奨励賞ともに応募数が少ないことが指摘され、方策を講じる必要が指摘された。

5) 倫理委員会

本橋委員長より症例報告倫理規定について理事会にて決定されているので、機関誌に掲載されることが要望された。

6) 将来計画委員会

加藤（進）委員長より以下の通り報告された。

①若手研究者・交流プログラム（仮称）について

日時：2010 年 10 月 7 日午後

会場：リーガロイヤルホテル小倉

正式な名称について検討され、「若手研

究者育成プログラム」とすることが決まった。

また、講師の招請費用として 10 万円を支出することとなった。

若手研究者育成プログラム担当の理事として笠井理事が任命された。

②会員数の増加策について

委員会からの提案に基づき検討され、以下のように決定された。

i) 入会申込について、Web 上で行えるようにする。

但し評議員の推薦が必要となるため、推薦書をホームページからダウンロードできるようにし、Web 上からの入会申請により仮入会とし、推薦書が提出され次第正式に入会とする。

ii) 入会申込書を機関誌に掲載する。

iii) 入会申込の際に評議員の推薦が必要となるので、評議員リストをホームページに掲載する。

iv) 若手会員について、優遇する制度を設ける。

医師歴 5 年以内の研修医やレジデントを対象に、若手会員を設け、年会費を半額とする。入会 1 年目は年会費を無料とする。また、学会参加費を半額とする。但し、機関誌は配布しない。

v) 2013 年度までの時限処置として、新入会者の会費を 1 年間無料とする。

但し、機関誌は配布しない。筆頭著者として発表できる。

7) 関連学会対応委員会

佐野委員長より、日本神経化学会との合同シンポジウムについて継続的な開催は中止することとなった。また、氏家寛委員が退任することが報告され、承認された。

8) 編集委員会

福田委員より以下の通り報告された。

①学会誌が A4 版になり、誌名を「日本生物学的精神医学会誌」と変更した。

②WFSBP に関する報告を継続的に掲載する。

③年会抄録集を機関誌に組み入れ、年間 5 冊の発行となることになっていたが、抄

録集はサプリメントとして発行する。

④21 巻 2 号および 3 号の企画について報告された。

⑤J-Stage の利用について、当面の間、学会誌発行後 3 ヶ月後に公開し、出版社との協議の上、発行次第公開することとなった。

9) 広報委員会

山脇委員長よりのホームページのリニューアル費用の見積もりが財政的に許容し難かったため、大幅なリニューアルは当面行わないこととなった。

「うつ病対策に関する関連学会共同宣言」をホームページに掲載予定であることが報告された。また、英語のページについて、検討することとなった。

10) ブレインバンク設立委員会

加藤（忠）担当理事より、以下のとおり報告された。

5 月 22 日に開催される委員会において報告書をまとめ、機関誌の別冊としてまとめる予定である。また、一般書籍としての新書の出版についても、今年度中に出版するべく作業中である。ブレインバンクに関する倫理委員会の下部組織として指針策定委員会を設立し、既に 2 回の委員会を開催し、6 月にも開催する予定であり、来年には指針としてまとめたものを提出する予定である。

11) 研究推進ワーキンググループ

加藤（忠）担当理事より特に報告事項はないとの報告があった。

12) うつ病対策ワーキンググループ

加藤（忠）担当理事より「うつ病対策に関する関連学会共同宣言」を 4 学会でまとめ、ホームページに掲載するとともに、5 月 22 日付けでプレス・リリースすることが報告され、提言を策定した経緯について説明があった。

今後も、政府や厚生労働省などへの働きかけを続けていく予定である。

4. WFSBP 報告

国際交流委員会報告にて報告されたので、省略。

5. 第 32 回年会準備報告

中村会長よりの資料に基づき、武田理事長より、

以下の通り報告された。

会期：2010 年 10 月 7 日～9 日

会場：リーガロイヤルホテル小倉（福岡県）

会長：中村 純（産業医科大学精神医学教室）

第 45 回日本アルコール・薬物医学会と第 13 回ニコチン薬物依存研究フォーラムが同時期に同会場で開催される。

また、演題募集は 6 月 15 日が締切となっていることが報告された。

6. 第 33 回年会準備状況報告

加藤（進）次期会長よりの資料に基づき、武田理事長より以下のとおり報告された。

会期：2011 年 5 月 21 日～22 日

会場：ホテルグランパシフィック LE DAIBA（東京都）

会長：加藤 進昌（昭和大学医学部精神医学教室）

会期が短いため、理事会・評議員会等の開催に工夫が必要であることが指摘された。

7. 第 34 回年会について

武田理事長より、2012 年について日本神経化学会が Asia-Pacific Neurochemistry を開催予定であるので、連合開催することが提案された。また、米田博理事が大会長として推薦され、全会一致で承認された。また、会期について 2012 年 9 月 28 日～30 日を予定することとなった。

8. 第 35 回年会（WFSBP との共催）について

武田理事長より、WESBP 2013 との共催として開催されるが、第 35 回年会の大会長として尾崎紀夫名古屋大学教授が提案され、全会一致で承認された。合同開催について問いかけたところ、日本神経精神薬理学会は日本臨床精神神経薬理学会との合同開催がある関係上会期などを動かさないとの回答があり、日本神経化学会は同時開催に前向きに検討しており日本神経科学会は日程を少し重ねる形での開催について検討していることが報告された。

また、プログラム委員会について Local Organizing Committee の設置について、現役員および役員経験者で現役である方を委員とすることが提案され、承認された。

9. その他

武田理事長より、「生物精神医学ライブラリー」として精神疾患の生物学的研究の内容をまとめたものを発刊することについて提案された。25 巻の予

定が提案されていたが、巻数をまとめることなどが指摘され、刊行に向けて作業されることとなった。
以上
